

詩篇119篇81～88節

- 81 私のたましいは、あなたの救いを慕って絶え入るばかりです。私はあなたのみことばを待ち望んでいます。
- 82 私の目は、みことばを慕って絶え入るばかりです。「いつあなたは私を慰めてくださるのですか」と言っています。
- 83 たとい私は煙の中の皮袋のようになって、あなたのおきてを忘れません。
- 84 あなたのしもべの日数は、どれだけでしょうか。あなたはいつ、私を迫害する者どもをさばかれるのでしょうか。
- 85 高ぶる者は私のために穴を掘りました。彼らはあなたのみおしえに従わないのです。
- 86 あなたの仰せはことごとく真実です。彼らは偽りごとをもって私を迫害しています。どうか私を助けてください。
- 87 彼らはこの地上で私を滅ぼしてしまいそうです。しかしこの私は、あなたの戒めを捨てませんでした。
- 88 あなたの恵みによって、私を生かしてください。私はあなたの御口のさとしを守ります。

כָּל־תְּהִי לְתַשׁוּעָתָךְ נַפְשִׁי לְדַבְרֶךָ יְהִלְתִּי:
 כָּל־וַעֲיִנִי לְאִמְרֹתֶיךָ לֹא־מַר מִתִּי תִנְחַמְנִי:
 כִּי־הִיִּיתִי כְּנֹאד בְּקִיטוֹר חֲקִיךָ לֹא־שָׁכַחְתִּי:
 כַּמָּה יְמֵי־עֲבָדָךְ מִתִּי תַעֲשֶׂה בְּרֹדְפֵי מִשְׁפָּט:
 כָּרוּ־לִי יָדַיִם שִׁיחוֹת אֲשֶׁר לֹא־כִתוּרְתֶךָ:
 כָּל־מִצְוֹתֶיךָ אֲמוֹנָה שֶׁקֶר רֹדְפוּנִי עֲזַרְנִי:
 כַּמַּעַט כָּלוּנִי בְּאֶרֶץ וְאֲנִי לֹא־עֲזַבְתִּי פְקוּדֶיךָ:
 כַּחֲסֻדָּךְ חִינִי וְאֲשַׁמְרָה עֲדוֹת פִּיךָ:

第十一字「カーフ」は、「k」を強く発音する子音です。

כָּלָה／カーラー…達成する、やめる、消費する、特定する、終える、…し損なう (81, 82, 87)

כִּי／キー…すなわち、なぜなら、まるで、しかし (83)

כַּמָּה (כְּמָה)／マー (カンマー) …何、どのように、どんな種類の (84)

כָּרוּ／カーラー…掘る、掘り起こす (85)

כָּל／コール…すべての (86)

כַּחֲסֻדָּךְ (חֲסֻדָּךְ)／ケハセデカー (ヘセド) …善、親切、忠実 (88)

今日の箇所では、詩人の苛立ちが感じられます。

私のたましいは、あなたの救いを慕って絶え入るばかりです。(81 節)

私の目は、みことばを慕って絶え入るばかりです。(82 節)

「救いを慕う」「みことばを慕う」と、まるで神のことばが救いそのものであるかのように置き換えられています。彼はどのような状況だったのででしょうか。先の箇所(73～80 節)との関連

で考えるならば、詩人は高ぶる者に蔑まれ、偽りを拡散され、それによって信仰の友が離れて行ってしまおうという憂き目に遭っていました。彼は自分の状況を「煙の中の皮袋」(83 節)に譬えています。これは当時ぶどう酒を入れるのに使った皮袋が古くなってヒビ割れてきたときに、それを天井に吊るして煙でいぶした習慣を反映しているようです。救いようもないほどにボロボロになった状態を指すのでしょうか。しかし、詩人はそれでも「あなたのおきてを忘れません」(83 節)、「私はあなたのみことばを待ち望んでいます」(81 節)と、御言葉にしがみつきます。御言葉にはどれほどの力があるのでしょうか。

高ぶる者は私のために穴を掘りました。(85 節)

前回と同様、今回も「高ぶる者」が登場します。しかも、その人は詩人を陥れるための罠を仕掛けたと。何か言葉を発するとそれが異なる意図で拡散されたのでしょうか。

彼らは偽りごとをもって私を迫害しています (86 節)

いずれにしても、真実を曲げて伝えられるのは困りものです。人々の誤解を解いていくことは要らない労力を費やします。詩人の印象を悪くするような噂が広まっていたのでしょうか。

彼らはこの地上で私を滅ぼしてしまいそうです。(87 節)

現代でも、マスコミが一斉に個人攻撃をすることで、その人が社会で生きていけないほどにまで追いやられてしまうことがあります。背後でカネが動くとき、黒は白になり、白は黒になる。

しかし、信仰者には最後の砦があります。それは真実なる神であり、嘘・偽りのない神のことばです。人の言葉は汚れていますが、神のことばは永遠に変わることがありません。どこまでも神のことばにしがみつくと詩人の執念を聞き取りましょう。

- ・ **私はあなたのみことばを待ち望んでいます。(81 節)**
- ・ **あなたのおきてを忘れません。(83 節)**
- ・ **あなたの仰せはことごとく真実です。(86 節)**
- ・ **しかしこの私は、あなたの戒めを捨てませんでした。(87 節)**
- ・ **私はあなたの御口のさとしを守ります。(88 節)**

「神のことば」を様々な単語に置き換えながら、自分にはこれ以外にないことを繰り返し繰り返し魂に綴り続けるのです。私たちも、人の言葉に絶対的な信頼を置いたら失望することでしょう。しかし、ただ一つ変わらないものがこの人生に与えられました。「神のことば」こそ私たちの拠り所、最後の砦です。そして、そのことばは、沈みゆく私たちの心にいのちを与えることができます。

あなたの恵みによって、私を生かしてください。(88 節)

如何なる状況下にあったとしても、聖書を開いてみましょう。神の答えがそこに綴られていると信じて。